

2005 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

syll mksyltex Ver 1.9993 (2005-10-08) by higaki@tu.chiba-u.ac.jp

2005 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF001001	図学演習	2.0	1 年前期月曜 3 限	渡邊 誠他	デザ 3
TF002002	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	1 年後期水曜 1 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 4
TF037001	材料計画演習 II	3.0	3 年前期月曜 1 限後半 3 年前期月曜 2 限	青木 弘行他	デザ 4
TF036001	人間工学演習 I	5.0	3 年前期月曜 3 限後半 3 年前期月曜 4,5 限	勝浦 哲夫他	デザ 5
TF058001	メディアデザイン演習 II	3.0	3 年前期火曜 1 限後半 3 年前期火曜 2 限	宮崎 紀郎他	デザ 6
TF042101	デザイン心理学演習 I	3.0	3 年前期火曜 3 限 3 年前期火曜 4 限前半	日比野 治雄	デザ 6
TZ052001	知的財産権セミナー	2.0	3 年前期火曜 5 限	(三中 英治) 他	デザ 7
TF038101	生活デザイン造形演習	3.0	3 年前期水曜 1 限 3 年前期水曜 2 限前半	堀田 明博他	デザ 8
TF039001	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期水曜 4 限後半 3 年前期水曜 5 限	渡邊 誠他	デザ 9
TF035001	デザイン文化計画演習 II	3.0	3 年前期木曜 1 限後半 3 年前期木曜 2 限	宮崎 清	デザ 10
TF043101	造形デザイン演習・平面	3.0	3 年前期木曜 4 限 3 年前期木曜 5 限前半	瀧 徹他	デザ 11
TF039003	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期木曜 4 限後半 3 年前期木曜 5 限	釜池 光夫他	デザ 12
TF041001	環境デザイン演習 I	3.0	3 年前期金曜 4 限後半 3 年前期金曜 5 限	清水 忠男他	デザ 12
TF061001	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 13
TF062001	卒業研究 (意匠・3 年)	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 14
TZ051001	工学倫理	2.0	3 年後期月曜 5 限	早乙女 英夫	デザ 15
TF047001	デザインシステム計画 II	2.0	3 年後期火曜 1 限	杉山 和雄他	デザ 16
TF045001	生理人類学	2.0	3 年後期火曜 2 限	勝浦 哲夫他	デザ 17
TF049101	デザイン心理学演習 II	3.0	3 年後期火曜 3 限 3 年後期火曜 4 限前半	日比野 治雄	デザ 17
TF050101	展示デザイン演習	3.0	3 年後期水曜 1 限後半 3 年後期水曜 2 限	佐藤 公信他	デザ 18
TF059001	メディアデザイン演習 III	3.0	3 年後期木曜 3,4,5 限	(児山 啓一) 他	デザ 19
TF046001	材料計画演習 III	3.0	3 年後期木曜 4 限後半 3 年後期木曜 5 限	青木 弘行他	デザ 19
TF048001	デザインシステム計画演習 II	3.0	3 年後期金曜 3,4,5 限	釜池 光夫他	デザ 20
TF044001	環境デザイン演習 II	3.0	3 年後期金曜 4 限後半 3 年後期金曜 5 限	清水 忠男	デザ 21
TF053001	学外実習	2.0	3,4 年通期集中	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 22
TF061004	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 22
TF062101	卒業研究 (意匠・4 年)	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 23
TF060701	人間工学演習 II	3.0	4 年前期火曜 1 限後半 4 年前期火曜 2 限	勝浦 哲夫他	デザ 23

2005 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF060101	音響デザイン演習	3.0	4 年前期水曜 3 限 4 年前期水曜 4 限前半	佐藤 公信	デザ 24
TG093201	機械工作実習 B	1.0	4 年前期金曜 4 限 4 年前期金曜 5 限前半	渡部 武弘	デザ 25

授業科目名： 図学演習
 科目英訳名： Descriptive Geometry (Lec & Lab)
 担当教官： 渡邊 誠, 田内 隆利, 小野 健太, 八馬 智
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF001001

開講時限等： 1 年前期月曜 3 限
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF1:デザイン A デザイン			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築						専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)					
TK2:先進フロン ティア	専門基礎必修 (E10)						

[授業の方法]

[目的・目標] 物品および空間を把握し、操作、表示する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な基礎的図法の理論の学習と演習を行う。具体的な目標は第三角法平行投影図法および JIS 製図法の理解および実践的な運用を可能にする能力を収得することとする。

[授業計画・授業内容]

1. 第三角法平行投影図法および JIS 製図法に関するイントロダクション
2. 第三角法平行投影図法：投影法、直線、直線と平面の関係を演習を通して理解する
3. 第三角法平行投影図法：平面と平面の関係を演習を通して理解する
4. 第三角法平行投影図法：切断を演習を通して理解する
5. 第三角法平行投影図法：相関体を演習を通して理解する
6. 第三角法平行投影図法：展開を演習を通して理解する
7. 第三角法平行投影図法：軸測投影を演習を通して理解する
8. 第三角法平行投影図法に関する試験：前回までに行った内容に関する試験を行う
9. JIS 製図法：寸法、R、材質などの JIS 規格による製図の基本的な表記方法を解説する。
10. JIS 製図法：簡単な道具を実測し姿図を作成する。実測法の実習。
11. JIS 製図法：断面図 1：簡単な製品の断面図を作成する
12. JIS 製図法：断面図 2：曲面を有する製品の断面図を作成する
13. JIS 製図法：構造図 1：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
14. JIS 製図法：構造図 2：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
15. JIS 製図法：講評：提出された課題をもとに講評を行う

[キーワード] 第三角法図学、JIS 製図法

[教科書・参考書] ガイダンスにて紹介

[評価方法・基準] テストおよび課題提出

授業科目名： デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名： Seminar: Introduction to Design
 担当教官： デ工 (意匠系) 各教官
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF002002

開講時限等： 1 年後期水曜 1 限
 講義室： 工 2 号棟 102 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF1:デザイン A デザイン			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)					

[授業の方法] 講義・演習

[目的・目標] セミナー形式の授業を通じて各教員の教育研究内容に触れることにより、デザイン領域での研究、実践に対する基本的理解を深めて行くとともに、少人数セミナーであることを活かし、学生と教員のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 各教員は配分されたグループ (3 ~ 4 名の学生) を全期間にわたって受け持ち、セミナー形式の授業を行う。全体のプロデューサ役は学年担任が務める。授業形態は、各教員が定めた課題についての実験、実習、調査ならびに考察、結果のまとめ・日々の生活体験や市場調査、現地調査にもとづく問題の発掘、ならびに解決に向けたデザイン提案・工場、施設などの見学を通じ、デザイン現場における生産、技術についてレポートなど、教員により様々な展開が考えられるが、その目指す方向は同じである。すなわち受講生は、デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、きめ細かい教育、指導のもと、教員と一体となって思考し、今後の学生生活の展望を得よう努めなければならない。各グループ単位での少人数授業が原則であるが、グループどうしが合流した全体討論や見学会など、担当教員が所属する分野単位での授業形態が適宜取り入れられることもある。また、授業形態によっては時間割外の時間に行うことがある。

[評価方法・基準] 課題、レポートおよび討論により成績評価を行う。

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教員と受講生で相談の上、その都度決定する。

授業科目名： 材料計画演習 II
 科目英訳名： Materials Planning and Seminar II (Lec & Lab)
 担当教官： 青木 弘行, (松岡 由幸), (山中 敏正)
 単位数： 3.0 単位
 授業コード： TF037001, TF037002

開講時限等： 3 年前期月曜 1 限後半 / 3 年前期月曜 2 限
 講義室： 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] デザイン材料に要求される性能と使われ方との関係を理論および演習の両側面から検討する。具体的には、[材料と感性との関わり]、[デザイン解としての材料と構造・形態との最適な関係] 等について、その考え方、理論、そして取り組み方を演習によって体験する。

[目的・目標] 理論と演習を通してデザインにおける材料計画のあり方を体得し、デザインに対する総合的な解析能力を養う。

[授業計画・授業内容] 以下に示す課題を行い、ポートフォリオとして視覚化する。(1) 製品の使われ方の調査から使い方を設計し、それをデザインへと展開する方法を検討する。(2) 製品が有する材料特性を解析し、そこから得られた知見を活用して新製品の提案を行う。(3) 人工素材で造られた観葉植物、建築材料、展示用食品サンプル等の価値分析を行い、イミテーション材料の意味と今後の可能性について検討する。(4) 製品の分解過程を体験し、材料活用や解体容易化設計のあり方を検討する。

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I

[備考] 準備品等は後日連絡

TF036001

授業科目名：人間工学演習 I
 科目英訳名：Experiments on Ergonomics I (Lec & Lab)
 担当教官：勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘, (富岡 慶)
 単位数：5.0 単位 開講時限等：3 年前期月曜 3 限後半 / 3 年前期月曜 4,5 限
 授業コード：TF036001, TF036002, TF036003 講義室：工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工学部, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 人間工学的デザインに関する演習・講義を行い、測定手法、解析手法等を実践的に学習する。演習内容としては、使いやすさや生体の負担を少なくすることを目的とした実験・デザイン提案を行う。

[目的・目標] 人間工学的実験を通して、基本的な測定・解析手法の理解を深めるとともに、それらを実践できる技術の獲得を目指す。また、実験結果に基づいたデザイン提案の考え方について考察する。また、最新のデザイン実践における人間工学領域の実際についての理解を深める。

[授業計画・授業内容] 3 つにグループ分けし、それぞれ 3 つのテーマについて実験、解析、パネル作成および研究発表を行う。第 1 回 実験概要の説明 第 2 回 実験データ解析方法について 第 3 回 製品人間工学に関する研究 (1) 第 4 回 製品人間工学に関する研究 (2) 第 5 回 製品人間工学に関する研究 (3) 第 6 回 インタフェースに関する研究 (1) 第 7 回 インタフェースに関する研究 (2) 第 8 回 インタフェースに関する研究 (3) 第 9 回 環境人間工学に関する研究 (1) 第 10 回 環境人間工学に関する研究 (2) 第 11 回 環境人間工学に関する研究 (3) 第 12 回 人間工学の実際 (1) 第 13 回 人間工学の実際 (2) 第 14 回 研究発表会 第 15 回 研究発表会

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。

[評価方法・基準] 成績評価法：出席、態度、プレゼンテーション

授業科目名：メディアデザイン演習 II
 科目英訳名：Communications Media Design II (Lec & Lab)
 担当教官：宮崎 紀郎, 小原 康裕, (塩谷 徹)
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年前期火曜 1 限後半 / 3 年前期火曜 2 限
 授業コード：TF058001, TF058002 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法]

[授業概要] ビジュアルコミュニケーションデザインにおける各種媒体 (映像メディア、紙メディアを含む) について、それぞれのコミュニケーションの考え方から実際の制作に至るプロセスを学び、課題制作を行なう。

[目的・目標] ビジュアルコミュニケーションにおける各種媒体 (映像メディア、紙メディアを含む) のデザインプロセスを学ぶこと。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 <課題 1> 広告コミュニケーション 個人課題テーマ：サムネール制作 グループ課題テーマ：雑誌広告制作 TV 広告・新聞広告・雑誌広告・交通広告・チラシ広告・屋外広告などの媒体特性と効果的な表現について事例を紹介しながら講義。 第 2 回 個人課題演習 (1) と講評 第 3 回 個人課題演習 (2) と講評 第 4 回 グループ課題演習 第 5 回 グループ課題講評 第 6 回 <課題 2> ビジュアルキャンペーン キャンペーンのテーマは、社会的な問題 (といて必ずしも大問題でなくてよい) とし、商品キャンペーン避ける。例えば、「新聞を読むことのすすめ」、「南棟における空き缶回収案」など、自分の関心が大きくこれは主張したいと思うことがらを選ぶ。 第 7 回 問題の状況の調査キャンペーンコンセプトづくり 第 8 回 媒体の決定問題を認識させる (訴求対象者に) ための構成表現コンセプトづくり 第 9 回 表現要素 (コピー、イラストレーション、マーク、ロゴタイプなど) の制作、原寸色彩スケッチ 第 10 回 本制作 第 11 回 <課題 3> WEB サイトの制作 ・インターネット公開を前提とした WEB サイトの構築する。 ・<課題 1> <課題 2> で制作した広告、キャンペーンなどを WEB 上で展開する。 ・HTML の基本文法、インターネットのもつメディア特性に対する理解を深める。 インターネットについて (講義) 第 12 回 アイデアの展開 トップページのカンプの制作 第 13 回 ページ構成のアイデア展開 カンプの中間講評 第 14 回 ページ構成を含めたプレゼンテーション 第 15 回 講評

[評価方法・基準] 成績評価法:課題提出

[備考] 平成 10 年度まで開講された「視覚媒体論・演習 II」の読み替え科目である。

授業科目名：デザイン心理学演習 I
 科目英訳名：Design Psychology I (Lec & Lab)
 担当教官：日比野 治雄
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年前期火曜 3 限 / 3 年前期火曜 4 限前半
 授業コード：TF042101, TF042102 講義室：工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40 人程度

[授業概要] デザインを受容するのは人間であるから、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持つ。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの基礎について学ぶ。

[目的・目標] 我々人間の身の回りに存在するあらゆるもののデザインを受容するのは人間である。この自明の事実に注目すれば、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持っていることが分かるであろう。本科目では、このような視点から、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチについて、実習的な課題も折り込みながら、体験的にその基礎から学んで行く。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：人間の知覚の基礎（知覚とはどのようなものかについて多角的に考える）；「見る」とは？（視覚系の生理学的側面およびその心理学的側面）；形の知覚（「かたち」の知覚，図と地など）；色の知覚（色彩を知覚する能力，色彩に対する心理的反応など）；デザイン心理学の基礎（デザインを心理学の観点から捉える）；その他 実習課題も行いながら，学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義内容は都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学，色彩，形，知覚

[教科書・参考書] 美と造形の心理学（北大路書房）

[評価方法・基準] 成績評価方法：課題および発表

[関連科目] 色彩科学，デザイン心理学演習 II

[履修要件] 色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[備考] 平成13年度まで開講していた「知覚心理学演習 I」の読み替え科目である。

TZ052001

授業科目名： 知的財産権セミナー 科目英訳名： Seminar: Intellectual Property Rights 担当教官： (三中 英治), 青木 弘行 単位数： 2.0 単位 授業コード： TZ052001	開講時限等： 3 年前期火曜 5 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度								学科 コース	入学年度 1997 年
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T1:工業意匠 A	専門基礎 選択必修 (E20)
TF1:デザイン A デザイン			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	TB:情報 B	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)		
TF4:デザイン A 建築	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)								
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)
TL:メディカルシ ステム A	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)								

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人まで

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 工学部の学生が社会に出て必要とする知的財産権について論述する。特に特許、商標、不正競争防止法、著作権等に関する知識を実例を基に解説し、また、各国の知的財産制度にも触れ、国際的視点からも論述する。

[目的・目標] 技術者としての権利と義務の基本となる知的財産権に関する知識の習得を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 知的財産 (権) とは
2. 特許制度とは
3. 先行技術の調査
4. 請求の範囲、明細書、図面
5. 出願の審査
6. 審判
7. 特許権の効力
8. 実用新案権、意匠権、著作権
9. 商標権、意匠権、著作権
10. 特許を巡る裁判 1 (均等論、当然無効)
11. 特許を巡る裁判 2 (従業員の発明)
12. 外国での特許等の取得
13. 特許権侵害対策 (権利者側)
14. 特許権侵害対策 (侵害者側)
15. 試験

[キーワード] 知的財産を知らない技術者に明日はない

[教科書・参考書] 参考書配布予定、また、毎回プリントを配布する

[評価方法・基準] 試験及び適宜レポートを求める

[履修要件] 知的財産に興味を持つこと

TF038101

授業科目名: 生活デザイン造形演習

(専門科目共通化科目)

科目英訳名: Forming for Living Design (Lec & Lab)

担当教官: 堀田 明博, 田内 隆利

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期水曜 1 限 / 3 年前期水曜 2 限前半

授業コード: TF038101, TF038102

講義室: 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[授業概要] 様々な身体特性を持つユーザを配慮した日常生活製品及び空間のデザイン能力を身につけることを目的とする。ユーザの身体特性や要求と製品・空間使用との関係に生じる問題の発見能力と、これを造形として解決する能力を養う。

[目的・目標] 種々の身体特性をもつユーザと生活における製品・空間使用との関係で生じる問題発見能力を、イメージスケッチ等絵画作業で養い、これを平面造形及び立体造形として解決する能力を身につける。また、同時にこれらの解決案を視覚的表現、3次元モデル等の立体的表現によって伝達するための表現能力等を身につける。

[授業計画・授業内容] 1. 授業目的の説明 2. 第 1 課題のデザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 3. 絵画作業等で検討 4. 同前 5. 平面・立体プレゼンテーション 6. 第 2 課題の説明 7. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 8. 絵画作業等で検討 9. 同前 10. 平面・立体プレゼンテーション 11. 第 3 課題の説明 12. インフォメーションシステムの調査 13. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 14. 絵画作業等で検討 15. 平面・立体プレゼンテーション

[キーワード] デザイン、ユーザ、生活、造形

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 基礎デザイン論 II

[履修要件] 2 年次で基礎デザイン論 II を履修していること。

[備考] 平成 8 年度まで開講していた「基礎意匠・演習 II」の読み替え科目、平成 10 年度まで開講していた「基礎意匠演習 II」の読み替え科目、平成 12 年度まで開講していた「基礎デザイン演習 II」の読み替え科目

TF039001

授業科目名： デザインシステム計画演習 I 科目英訳名： Design Systems Planning I (Lab) 担当教官： 渡邊 誠, (上田 義弘) 単位数： 3.0 単位 授業コード： TF039001, TF039002	開講時限等： 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 25 名

[授業概要] 本演習は、インダストリアル・デザインの全てのプロセスを通じてその方法と展開について習得する。本演習では新しい機能の合成・中と外の融合をテーマに (P) では電子化ツールのデザインを (T) ではトランスポーテーションのデザインを演習により習得する。

[目的・目標] (P) 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けられるデザインを行う。アピアランスおよびソフトの双方の提案を行う。(T) 新しいコンセプトの提案にともなうトランスポーテーションのデザインを行う。ここでの機能とは、ハード的な側面よりもむしろどのように車を使うのかというソフトの提案から機能すなわち形や使い勝手に展開することを示している。今日存在しないコンセプトおよびパッケージに基づき、エクステリア・インテリア双方の提案を行う。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス・デザインレビュー
2. デザインレビュー
3. コンセプト開発とデザイ
4. 技術の発展予測とデザイン
5. コンセプト開発テーマの選定
6. ユーザーターゲットの設定
7. シナリオ設定とデザイン展開
8. デザイン展開 1
9. デザイン展開 2
10. デザインチューニング
11. デザインクリニック
12. アピアランス・エクステリアレビュー
13. ソフトウェアインターフェイス・インテリアレビュー
14. プレゼンテーション準備 1
15. プレゼンテーション準備 2

[キーワード] インダストリアルデザイン, アピアランス, ソフト, エクステリア, インテリア

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II 履修していること

[備考] 受講者は (P) 電子化ツールのデザイン・(T) トランスポーターションのデザインどちらかを受講すること。
(P) は水曜日 4 コマの半分-5 コマ (T) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

TF035001

授業科目名 : デザイン文化計画演習 II

科目英訳名 : Culture of Design Seminar II (Lec & Lab)

担当教官 : 宮崎 清

単位数 : 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限

授業コード : TF035001, TF035002

講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 地域社会におけるデザイン文化の諸相を、近隣地域におけるフィールド・サーベイを通して把握・解析する。また、得られた知見を地域社会に向けたデザイン提案としてまとめ、発表する。なお、フィールド・サーベイの意義・方法を学習した後、夏季休業中に地域社会に 10 日間ほど出向いてフィールド・サーベイを行う。

[目的・目標] 人間生活の「あるべき姿」の探求・提案としてのデザイン実践にあたっては、「これまで」および「今日」の生活文化に関する総点検を欠かすことができない。そのためには、「野に出て生活を学ぶ」フィールド・サーベイを通じて、人びとの生活文化の総体をそれぞれの地域の歴史的・風土的脈絡のなかでしっかりとみつける必要がある。本演習は、「デザイン文化論」で学び築いた生活文化解析の視座に基づき、実際の地域社会における生活文化の「あるべき姿」を探求・提案する資質の涵養を目的としている。

[授業計画・授業内容]

1. 地域社会における自然との共生のデザイン
2. 地域社会における資源利活用のデザイン
3. 地域社会におけるアノニマス・デザイン
4. 地域社会における環境・景観形成のデザイン
5. 調査地の概要の把握
6. テーマ設定と調査計画の検討
7. 調査項目の検討
8. フィールド・サーベイの実施
9. フィールド・サーベイの実施
10. フィールド・サーベイの実施
11. フィールド・サーベイの実施
12. フィールド・サーベイのまとめ
13. フィールド・サーベイに基づいたデザイン提案の検討
14. 報告会の開催
15. フィールド・サーベイを通じたデザイン文化の展望

[キーワード] デザイン, フィールドサーベイ, 生活文化, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 資料・参考文献等を授業のなかで紹介・提示します。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] デザイン文化計画、デザイン文化計画演習 I

[履修要件] 特にありません。

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。平成 8 年度まで開講していた「デザイン文化計画・演習 I」の読み替え科目

TF043101

授業科目名：造形デザイン演習・平面 科目英訳名：Tableau (Lec & Lab) 担当教官：瀧 徹, 田内 隆利, (小林 基輝) 単位数：3.0 単位 授業コード：TF043101, TF043102	開講時限等：3 年前期木曜 4 限 / 3 年前期木曜 5 限前半 講義室：工 2 号棟 102 教室, 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房, 工 2 号棟 102 教室, 工 版画工 房 (T2-104), 工 2 - 工房
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度					学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	TF1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[授業概要] 表現の領域は複雑多岐に及んでおり、手描きと印刷等の制作手法の違いを理解し、造形上の問題点を幅広い視点からデザインとして検討を行う。版画は直接、平面に描くのではなく、版を使って間接的に絵を作っていく技法である。

[目的・目標] デザインに必要な計画力、構成力、そして表現力を具体的モチーフ、抽象的モチーフを通して習得することを目的とする。表現には手描き、コンピュータ、版手法を用い、制作手法の違いによる表現結果の特性を理解する。

[授業計画・授業内容] 課題・デッサン、自画像（鉛筆） ・ 帽子を被る自画像（銅版画） ・ キュビズムの自画像の合成（リトグラフ）

1. オリエンテーション / 版画の説明、下書きの描き込み
2. 自画像デッサン / 帽子の発想の工夫、描画の表現
3. 銅版画古典技法 / グランドの処理
4. 下絵の転写 / マットフィルムからの転写、その手順、描写
5. ニードルによる描画 / 描写、その描き込み方、ハッチング、表現の的確性
6. 腐食、硝酸による / 硝酸の腐食の具合、濃度、時間による変化の把握
7. 加筆、ニードル / 描き込み、描写密度、質感の表現 エッチング
8. 腐食 / 再度の腐食での版の変化 アクアチント
9. 刷り / 刷りによる効果、マージ、プレートマーク、表現力
10. 刷り / PC 上で合成加工
11. OHP 出力、転写 / JPG ファイル、フロッピーにて持参する。OHP に出力する
12. PS 版写真感光、現像 / 日光による露光の為、露光時間が不安定になるので注意
13. 刷り / アップリケ技法による平面刷り
14. 刷り / 多色による刷り
15. 講評・採点

[キーワード] デザイン、平面、造形、構成、

[評価方法・基準] 出席率 4/5 が条件 (60%)、課題、制作は 40%

[備考] 平成 8 年度まで開講していた「平面造形・演習」、平成 9 年度まで開講していた「造形実習 I・II」、平成 11 年度まで開講していた「造形デザイン演習」の読み替え科目

授業科目名: デザインシステム計画演習 I
科目英訳名: Design Systems Planning I (Lab)
担当教官: 釜池 光夫, (岡崎 良二)
単位数: 3.0 単位
開講時限等: 3 年前期木曜 4 限後半 / 3 年前期木曜 5 限
授業コード: TF039003, TF039004
講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本演習は、インダストリアル・デザインの全てのプロセスを通じてその方法と展開について習得する。本演習では新しい機能の合成・中と外の融合をテーマに (P) では電子化ツールのデザインを (T) ではトランスポーターのデザインを演習により習得する。

[目的・目標] (P) 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けられるデザインを行う。アピアランスおよびソフトの双方の提案を行う。(T) 新しいコンセプトの提案にともなうトランスポーターのデザインを行う。ここでの機能とは、ハード的な側面よりもむしろどのように車を使うのかというソフトの提案から機能すなわち形や使い勝手に展開することを示している。今日存在しないコンセプトおよびパッケージに基づき、エクステリア・インテリア双方の提案を行う。

[授業計画・授業内容] 第 1 回ガイダンス・デザインレビュー, 第 2 回デザインレビュー, 第 3 回コンセプト開発とデザイン, 第 4 回技術の発展予測とデザイン, 第 5 回コンセプト開発テーマの選定, 第 6 回ユーザーターゲットの設定, 第 7 回シナリオ設定とデザイン展開, 第 8 回デザイン展開 1, 第 9 回デザイン展開 2, 第 10 回デザインチューニング, 第 11 回デザインクリニック, 第 12 回アピアランス・エクステリアレビュー, 第 13 回ソフトウェアインターフェイス・インテリアレビュー, 第 14 回プレゼンテーション準備 1, 第 15 回プレゼンテーション準備 2

[キーワード] インダストリアルデザイン, アピアランス, ソフト, エクステリア, インテリア

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II 履修していること

[備考] 受講者は (P) 電子化ツールのデザイン・(T) トランスポーターのデザインどちらかを受講すること。(P) は水曜日 4 コマの半分-5 コマ (T) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

授業科目名: 環境デザイン演習 I
科目英訳名: Environmental Design I (Lec & Lab)
担当教官: 清水 忠男, 原 寛道
単位数: 3.0 単位
開講時限等: 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限
授業コード: TF041001, TF041002
講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 身近な環境形成要素であるストリートファニチャー（ベンチ、くず入れ、水飲み、バス停用シェルター、案内板等）を対象とした幾つかの選択課題から一つを選び、使用者の要求や使用場所の条件等の調査を経て、製品とそれが使われる場のデザイン提案を行う。各課題の優秀作品は、企業の協力を得て実物製作を行う可能性があり、また、各種デザインコンペや、学生家具デザイン展への応募・出品推薦の対象とされる予定。

[目的・目標] 「環境」は、言い換えれば「人間をとりまく状況」なのだから、誰もが日常的に接していることだ。現実を目を注げば、きわめて多くの多様なデザインの課題が広がっていることに気づかされる。本演習では、身近な環境形成要素であるストリートファニチャーのデザインを手がかりに、使用者と製品・空間とのかかわりを総合的にとらえる環境デザインの基本を学んで行く。

[授業計画・授業内容] 日程 1) 講義：環境形成製品としてのストリートファニチャー (SF) 講義：環境形成製品と場のデザイン：あるデザイナーの仕事为例として選択課題の説明 2) 講義：各課題の背景 / 企業における開発の実際 3) 調査 (学外) 4) 講義：環境形成製品と使用される場とのかかわり 5) 調査結果と基本方針の発表 / 講評 6) 講義：SF に関する人間工学的・心理学的基本と可能性 講義：SF に関する構造・材料の基本と可能性 7) 講義：SF の開発プロセスと図面表現 / 模型製作技法 8) 作業 / 個別相談 9) 作業 / 個別相談 10) SF のデザイン提案の発表 / 講評 11) 環境形成製品と使用される場の図面表現 / 模型製作技法 12) 調査 (学外) 13) 作業 / 個別相談 14) 作業 / 個別相談 15) 使用される場を含めた総合的デザイン提案の発表 / 講評全課程終了後、選ばれたデザイン提案は、さらなる特別指導を経て、各協力企業の関連工場等で実習方式をとりながら実物製作に進む可能性を持ち、その他の優秀作品とともに、学内外で発表展示を行い、各種デザインコンペや、学生デザイン展への応募・出品推薦の対象となる予定。なお、上記課程とは別に協力企業のショールーム見学 (任意参加) を行う。

[キーワード] 環境形成製品のデザイン, ストリートファニチャー, 身体支持具, 家具デザイン, 場のデザイン

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] 各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。

TF061001

授業科目名： デザイン工学総合プロジェクト

科目英訳名： Collaborative Research & Design Projects

担当教官： デ工 (意匠系) 各教官

単位数： 6.0 単位

開講時限等： 3 年後期月曜 4,5 限

授業コード： TF061001, TF061002

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2: デザイン A インダストリアル デザ			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3: デザイン A メディアデザイン			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF5: デザイン A 意匠	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)					
TK2: 先進フロン ティア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 講義、演習、実験、実習、実技

[授業概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[目的・目標] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[授業計画・授業内容] 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第 6、7、8 セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

TF062001

授業科目名：卒業研究（意匠・3年）
 科目英訳名：Graduation Study
 担当教官：デ工（意匠系）各教官
 単位数：6.0 単位
 授業コード：TF062001

開講時限等：3年後期月曜 4,5 限
 講義室：各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)					

[授業の方法]

[目的・目標] 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[授業計画・授業内容] 3年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等をとって随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

[備考] 履修登録は「後期集中」で行ってください。

授業科目名： 工学倫理
 科目英訳名： Engineering Ethics
 担当教官： 早乙女 英夫
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TZ051001

開講時限等： 3 年後期月曜 5 限
 講義室： 総 B

科目区分表

学科 コース	入学年度								学科 コース	入学年度	
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TE:都市環境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T1:工業意匠 A	専門基礎 選択必修 (E20)	
TF1:デザイン A デザイン			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T4:情報 A	専門選択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T8:画像 A		選択必修 専門 I 類 (F26)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	TB:情報 B	専門選択 (F30)	
TF4:デザイン A 建築	専門基礎 選択必修 (E20)	専門 選 択 科 目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)			
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)									
TH:情報画像 A	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)		
TH1:情報画像 A 情報工学			専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)		
TH3:情報画像 A 画像材料工学			専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	選 択 必 修 A 群 (F29)	選 択 必 修 A 群 (F29)		
TH4:情報画像 A 画像システム工学			専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	選 択 必 修 A 群 (F29)				
TI:物質 A			専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)		
TI1:物質 A 化学 物質化学			専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)			
TI2:物質 A 機能 物質機能			専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)			
TI3:物質 A 物性 物質物性			専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F36)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)	専門 選 択 科 目 (F30)			
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	
TK2:先進フロン ティア	専門 基 礎 選 択 (E30)	専門 基 礎 選 択 (E30)									
TL:メディカルシ ステム A	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)									
TM1:共生応用化 A 生体関連コー ス 生体関連	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)									
TM2:共生応用化 A 応用化学コー ス 応用化学	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)									
TM3:共生応用化 A 環境調和コー ス 環境調和	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)									

[授業の方法] 講義

[受入人数] 160 名

[受講対象] 工学部 2~4 年次 (学科により指定あり、電子機械工学科を除く)。電子機械工学科の学生は、本科目ではなく、「技術者倫理 (電子機械) (機)」または「技術者倫理 (電子機械) (電)」を履修すること。

[授業概要] 工学は、科学・技術のさまざまな成果を活かし、我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学である。しかし、その使用の方向、利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ、ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では、社会との関係における工学者の使命、規範、役割、権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において、正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 以下は平成 17 年度の授業内容に更新しました。(20050922)

1. 10月3日(月) ガイダンス(早乙女 英夫 千葉大学工学部)
2. 10月17日(月) 職能倫理としての工学倫理(土屋 俊 千葉大学文学部)
3. 10月24日(月) 倫理とは(高橋 久一郎 千葉大学文学部)
4. 10月31日(月) 工学倫理の特徴(忽那 敬三 千葉大学文学部)
5. 11月7日(月) 工学者の高齢者・障害者への対応(市川 薫 千葉大学大学院自然科学研究科)
6. 11月14日(月) 技術者の知的所有権等財産的権利(1)(三中 英治 千葉大学非常勤講師)
7. 11月21日(月) 技術者の知的所有権等財産的権利(2)(三中 英治 千葉大学非常勤講師)
8. 11月28日(月) 組織における工学者の倫理(中込 秀樹 千葉大学工学部)
9. 12月5日(月) 技術者の倫理と国際化(野口 博 千葉大学工学部)
10. 12月12日(月) ネットワーク倫理(全 へい東 千葉大学総合メディア基盤センター)
11. 12月19日(月) エネルギー産業と環境倫理(町田 基 千葉大学工学部)
12. 1月16日(月) 製造物責任(PL)法(1)(小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
13. 1月23日(月) 製造物責任(PL)法(2)(小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
14. 1月30日(月) 電力会社と企業倫理(1)(木本 光一 東京電力)
15. 2月6日(月) 電力会社と企業倫理(2)(木本 光一 東京電力)

[キーワード] 工学者の使命、モラル、義務、規範、技術者倫理

[評価方法・基準] 出席及びテスト

[履修要件] 各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし、表示がない場合は各学科教育委員に確認して下さい。

[備考] 講師の都合により順番、内容に関して変更する場合があります。受講票の提出は必要ありませんが、必ず、初回の授業に出席して下さい。前期に履修登録をしなかった者は10月3日(月)~10月13日(木)に履修登録して下さい。この期間を過ぎるとこの科目の登録ができませんので、十分注意して下さい。また、履修登録の削除をする場合には、この期間あるいは履修登録取消期間(11月7日~18日)の間に行ってください。電子機械工学科の学生は、本科目ではなく、「技術者倫理(電子機械)」TG208001またはTG208002を履修して下さい。

TF047001

授業科目名: デザインシステム計画 II

科目英訳名: Design Systems Planning II (Lec)

担当教官: 杉山 和雄, 渡邊 誠

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年後期火曜 1 限

授業コード: TF047001

講義室: 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 製品デザインの企画・デザインプロセスにおいて必要な情報の収集とその分析方法について多角的な講義を行う。デザインにおけるデータの種類と質の理解、さらにはその解析方法について習得するとともに、今後のデザインシステムに必要なシステム化の方法についての講義を行う。

[目的・目標] 日本のインハウスのデザイナーはデザインの周辺的能力、企画能力・商品開発能力・市場把握能力が要求される。本論では、このデザインが担当する企画や開発に必要な能力を習得することを目的としている。

[授業計画・授業内容] 第1回オリエンテーション, 第2回デザイン解析の利用法, 第3回デザインにおけるデータ, 第4回データの構築法, 第5回構造化の方法1, 第6回構造化の方法2, 第7回構造化の方法3, 第8回構造化の方法4, 第9回構造化の方法5, 第10回構造化の方法6, 第11回評価の方法1, 第12回評価の方法2, 第13回システム化の方法1, 第14回システム化の方法2, 第15回試験

[キーワード] 企画, 分析, デザイン

[教科書・参考書] 左脳デザインング, エクセルに学ぶ調査分析

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] デザインシステム計画 I を履修していること

TF045001

授業科目名: 生理人類学
 科目英訳名: Physiological Anthropology (Lec)
 担当教官: 勝浦 哲夫, 岩永 光一
 単位数: 2.0 単位
 授業コード: TF045001

開講時限等: 3 年後期火曜 2 限
 講義室: 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築						専門選 択(F30)	専門選 択(F30)
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザインにおいて人間の機能とその特性を把握しておくことは重要である。生物としての人間の機能と特性について、進化の過程と現代の科学技術文明の視点から解説し、真に健康で快適な生活環境の構築に貢献するデザインの方向性について論じる。

[目的・目標] 生物としての人間の存在についての理解を求め、現在の科学技術に支えられた生活環境と人間との関係を、人間の生物学的特性から考察しうる能力の獲得を目指す。その上で、真に快適で健康な生活環境の構築を目指す生理人類学の視点から、デザインの進むべき方向性を考察する。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 人類の進化・技術文明社会と生理人類学 第 2 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (1) 第 3 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (2) 第 4 回 人間の高次神経活動からみた快適性 (1) 第 5 回 人間の高次神経活動からみた快適性 (2) 第 6 回 人間特性としての疲労 第 7 回 疲労の評価手法 第 8 回 生理人類学とデザイン 第 9 回 人工環境と自然環境 第 10 回 温熱環境と人間 (1) 第 11 回 温熱環境と人間 (2) 第 12 回 温熱環境と人間 (3) 第 13 回 光環境と人間 (1) 第 14 回 光環境と人間 (2) 第 15 回 期末テスト

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店、「最新生理人類学」佐藤方彦編、朝倉書店。

[評価方法・基準] テスト他

TF049101

授業科目名: デザイン心理学演習 II
 科目英訳名: Design Psychology II (Lec & Lab)
 担当教官: 日比野 治雄
 単位数: 3.0 単位
 授業コード: TF049101, TF049102

開講時限等: 3 年後期火曜 3 限 / 3 年後期火曜 4 限前半
 講義室: 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40 人程度

[授業概要] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識および能力を習得することを目的とする。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの応用的側面について実践的に学ぶ。

[目的・目標] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識を身につけることを目的とする。実際に心理学的な視点からデザインを捉えるような課題を体験的に行い、デザイン心理学の研究を身近なものとして捉え直すとともに、卒業研究の方向付けまでを目標としたい。主として色彩関係のトピックを取り上げ、デザインにおいて重要な配色の問題まで実習課題を通して扱って行きたい。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：デザイン心理学とは（心理学的な考え方とはどのようなものか）；デザイン心理学の基礎と応用（デザインを心理学的視点から捉える）；形の知覚（形の知覚の応用）；色の知覚（色の知覚に関する諸問題）；カラーコーディネートに関連する問題（検定試験に関連する色彩の問題について学ぶ予定） 実習課題も行いながら、学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義計画は、都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学, 色彩, 形, 知覚

[教科書・参考書] 詳細については第 1 回の講義の際に伝える。

[評価方法・基準] 課題および発表

[関連科目] 色彩科学, デザイン心理学演習 I

[履修要件] デザイン心理学演習 I および色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[備考] 平成 13 年度まで開講していた「知覚心理学演習 II」の読み替え科目

TF050101

授業科目名： 展示デザイン演習

科目英訳名： Display Design(Lec&Lab)

担当教官： 佐藤 公信, (鈴木 恵千代)

単位数： 3.0 単位

開講時限等: 3 年後期水曜 1 限後半 / 3 年後期水曜 2 限

授業コード： TF050101, TF050102

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 具体的な空間を想定し、実際に即したプロセスをとりながらデザイン提案を行う。

[目的・目標] 伝達・訴求機能を主目的として空間を演出するディスプレイ（展示）デザインの特性を認識し、計画上の構成要素について基本的な諸問題を考察する。また、課題を通し具体的なデザイン手法に関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容] ・空間デザインの実例とデザインプロセスについて・ゾーニング 平面プランの考え方・アイディアの展開・表現手法について・課題 1 商業施設の企画・デザイン・課題 2 コミュニケーションスペースにおける展示計画・プレゼンテーション及び講評

[キーワード] 展示, 商業施設

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 平成 13 年度まで開講していた「展示デザイン演習 I」及び「展示デザイン演習 II」の読み替え科目である。

授業科目名：メディアデザイン演習 III
 科目英訳名：Communications Media Design III (Lec & Lab)
 担当教官：(児山 啓一), (松原 正毅), (山田 茂)
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年後期木曜 3,4,5 限
 授業コード：TF059001, TF059002, 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)
 TF059003

科目区分表

学科 コース	入学年度					学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	T1:工業意匠 A	専門選 択必 修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法]

[授業概要] 視覚デザインに関係するさまざまな分野で活躍している専門家による、それぞれの分野の特性、ならびに現状と展望の概説を行なう。

[目的・目標] 視覚デザインに関係するさまざまなデザイン分野の最新情報に接し、現状の問題点や今後の展望の考察結果に基づいて、具体的なデザイン提案を行うこと。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 公共サインとは サインの基本要素、情報の種類、表現要素 (サインエレメント) 公共のサインの目的とは。 第 2 回 街の公共サイン 公共建築、公園、市街におけるサイン計画の手法について。
 第 3 回 空港の公共サイン 日本の空港と世界の空港の現状、多言語とピクトグラム 色彩の役割などについて。
 第 4 回 駅の公共サイン 駅と車両の連携、JR・民鉄・地下鉄の相違、自動化 (省力化) は誰のため? 第 5 回 フィールドスタディー。JR 千葉駅と新東京国際空港を見学して、各々の特性と共通性、視認度等について実体験する。 第 6 回 パッケージデザインの領域。グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン。演習：課題出題、スケッチ。 第 7 回 パッケージに求められる機能の変遷。販売促進、保護、保管、生産、社会性、環境適性。演習：課題スケッチ。 第 8 回 人間工学とパッケージ・デザイン。道具としてのデザイン。演習：課題ロゴタイプのスケッチ。 第 9 回 商品計画とパッケージ・デザイン。商品計画、宣伝、販売、物流。演習：課題シンボルマーク等スケッチ。 第 10 回 パッケージ・デザイン制作のシステム。スケッチ、ロゴタイプ、シンボルマーク、パターン、レイアウト、プレゼンテーション。演習：課題まとめのスケッチ。 第 11 回 放送局における CG 利用と制作 CG 概論と放送局の CG 第 12 回 ニュース・選挙・スポーツ・天気は文字情報でいっぱい デザイナーのふるさとの世界 第 13 回 オールデジタル・カメラレス映像について 第 14 回 ヴァーチャルセットとリアルタイム 3DCG CG キャスター・CG タレントの誕生はいつ? 第 15 回 まとめ

[評価方法・基準] 成績評価法:課題提出

[備考] 平成 10 年度まで開講された「視覚情報・演習」の読み替え科目である。

授業科目名：材料計画演習 III
 科目英訳名：Materials Planning and Seminar III (Lec & Lab)
 担当教官：青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年後期木曜 4 限後半 / 3 年後期木曜 5 限
 授業コード：TF046001, TF046002 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	T1:工業意匠 A	専門選 択必 修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科 目 (F36)	専門選 択科 目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] デザイン材料に関連した諸問題をグル - プ作業を通して考察、検討する。得られた成果はビジュアルな媒体にまとめて発表・討論会を行い、最終成果物を報告書として制作する。特に、グループ作業を通しての意見交換、およびそれらの整理・統合、そしてプレゼンテーションへのアプローチの体験を重視する。

[目的・目標] 材料計画演習における最終段階として、問題発見能力・問題解決能力・コラボレーション能力・プレゼンテーション能力等々、より高度な創造性能力を体得する。

[授業計画・授業内容] 第 1 回：主旨説明と前年度までの成果概説、 第 2 回：デザイン材料に関連した諸問題の抽出、
第 3 回：提起された問題に対する解決策の視点と論点に関する講義、 第 4 回：問題解決策の検討、 第
5 回：検討内容の構造的に整理とメインテーマ、サブテーマの階層化、 第 6 回：問題解決の視点・論点を再検
討、 第 7 回：問題解決策の構造明確化、 第 8 回：サブテーマごとの検討作業、 第 9 回：同上 第
10 回：中間発表、 第 11 回：問題解決策の検討、 第 12 回：発表・討論会準備、 第 13 回：発表・討論
会、 第 14 回：報告書の構想検討、 第 15 回：報告書作成

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I、材料計画演習 II

[備考] 夏期休業期間中に集中合宿を行う予定。

TF048001

授業科目名： デザインシステム計画演習 II
 科目英訳名： Design Systems Planning II (Lab)
 担当教官： 釜池 光夫, 小野 健太, (赤司 尚行), (澤田 均)
 単位数： 3.0 単位 開講時限等: 3 年後期金曜 3,4,5 限
 授業コード： TF048001, TF048002, 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリ
 TF048003 工 (2-601), 工 1-401 (デザイン実習室),
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] インダストリアル・デザインにおいて必要な先行デザインの提案を、ネットワーク・プロダクツ (N) とアドバンスド・トランスポーターション (A) からテーマを設定し行う。双方ともデザインのシステムの側面をとらえた提案を行うとともに、その中で使われるものをデザインする。

[目的・目標] (N) 新たな価値を創造するようなシステム、ビジネスモデルの提案を行う。ホームネットワーク、ネットワークプロダクツのような家庭内のシステムから、ユビキタスネットワークのように公共性の高いプロダクトのシステムまで幅広い領域を対象にする。(A) トランスポーターションの領域で、自動車という枠組みにとらわれることなく提案を行う。アドバンスドトランスポーターションを単体としてとらえたシステムから、カーシェアリング、ITS など交通のシステムとしての側面をとらえる範囲までデザイン対象とする。但しシステムの提案と同時に必ず乗るものをデザインこと。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. テーマの選定・現状および問題点の把握
3. プレーンストーミングによる問題点の整理
4. デザインコンセプトの作成
5. デザイン展開 1
6. デザイン展開 2
7. デザイン展開 3

8. アイデアの絞り込み
9. 中間プレゼンテーション
10. レンダリング完成
11. モデル作成 1
12. モデル作成 2
13. モデル作成 3
14. プレゼンテーション準備
15. プレゼンテーション

[キーワード] アドバンスデザイン, ネットワークプロダクツ, トランスポートーション

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II デザインシステム計画演習 I を履修していること

[備考] 受講者は (N) ネットワーク・プロダクツと (A) アドバンスド・トランスポートーションどちらかを受講すること。(N) は金曜日 4 コマの半分-5 コマ (A) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

TF044001

授業科目名: 環境デザイン演習 II

科目英訳名: Environmental Design II (Lec & Lab)

担当教官: 清水 忠男

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限

授業コード: TF044001, TF044002

講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 千葉県内の具体的な地域を対象に、現地踏査や地元の方々とのワークショップ等を行い、その地域のかかえている問題点や可能性を把握し、デザインの貢献し得るテーマを選んで、提案を行う。作業はグループによって行われ、多くの専門家の助言も得て、レベルの高い実効性のある提案にまとめる。

[目的・目標] 環境デザインを行う際、最も重要なことの一つは、多様な要求を関係づけながら総合的に考察して提案にまとめる技法や能力である。また、もう一つは、そうした問題解決の過程や提案において多様な人々の協力や理解を得る技法や能力である。それらは、机上では得られない。現場とのかかわりを通して身につけられるのである。本演習では、具体的なプロジェクトやグループ作業を通して、学生諸君が持っているそうした可能性を引き出し発展させることを目指す。

[授業計画・授業内容] 内容 1) ガイダンス / 各人の興味対象 (選択肢) の仮決定 対象別に調査方法に関するグループディスカッション 2) 現地調査 (初回の合同調査を除きグループごとに日程等を決定) 3) 調査報告と基本方針の作成作業 4) 調査報告と基本方針の作成作業 5) 調査報告と基本方針の発表・講評 招待講演 (関連領域の専門家) 6) 現地追加調査 / 地元の方々との意見交換 (グループごとに日程等を決定) 7) 基本デザイン提案作成作業 8) 基本デザイン提案作成作業 9) 基本デザイン提案の発表 / 講評 招待講演 (関連領域の専門家) 10) 中間発表会・地元の方々との意見交換 11) 現地追加調査 (グループごとに日程を決定) 12) 最終デザインのための作業 13) 最終デザインのための作業 14) 最終デザインの発表 / 講評 15) 最終発表会・地元の方々との意見交換 * 地元の方々との意見交換の日程は、学生グループや地元の方々の都合により決定される。

[キーワード] 環境デザイン, 地域計画, 地域振興, 街路計画, 広場計画, 公共サイン計画

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] チーム全体の成果に対する評価とチーム作業への貢献度、各回に提出された個人のコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、チーム作業への貢献度が極めて低い場合は、原則として単位は与えられない。

TF053001

授業科目名： 学外実習
 科目英訳名： Extracurricular Activity
 担当教官： デ工（意匠系）各教官
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 3,4 年通期集中
 授業コード： TF053001
 講義室： 未定（工学部）

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					

[授業の方法]

[受講対象] 3・4 年次

[目的・目標] 本実習の目的は、大学での講義および実習をとおして身につけたデザイン技術に関する能力を、実社会において具体的にどのように応用するか、また、大学では学べないデザイン実務等に関する体験を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 本実習は授業等の休業期間中を利用して、学外の企業等の組織において実務を体験する。期間、実習内容等は学外の組織と本学科と調整の上で決定されるため、定常的に本実習が行われるわけではない。希望者は事前に学年担当教員に申し出て、その指導・指示に従うこと。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 履修にあたっては学年担任に申し出ること

[備考] 3・4 年次に履修

TF061004

授業科目名： デザイン工学総合プロジェクト
 科目英訳名： Collaborative Research & Design Projects
 担当教官： デ工（意匠系）各教官
 単位数： 6.0 単位
 開講時限等： 4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限
 授業コード： TF061004
 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)					
TK2:先進フロン ティア	専門必修 (F10)						

[授業の方法]

[授業概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教員チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[目的・目標] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第7および第8セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[授業計画・授業内容] 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第6、7、8セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

[備考] 履修登録は「通期集中」で行ってください。

TF062101

授業科目名 : 卒業研究 (意匠・4年) 科目英訳名 : Graduation Study 担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官 単位数 : 6.0 単位 授業コード : TF062101	開講時限等: 4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限 講義室 : 各研究室
---	--

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	TF1:工業意匠 A	1997 年 専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)						

[授業の方法]

[目的・目標] 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[授業計画・授業内容] 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等を行うとして随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

[備考] 履修登録は「通期集中」の欄から行ってください。

TF060701

授業科目名 : 人間工学演習 II 科目英訳名 : Experiments on Ergonomics II 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘 単位数 : 3.0 単位 授業コード : TF060701, TF060702	開講時限等: 4 年前期火曜 1 限後半 / 4 年前期火曜 2 限 講義室 : 各研究室
---	--

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 人間工学では、さまざまなデザイン対象に関連した総合的な人間特性の評価が求められる。本講義では、種々の生理心理機能の測定方法について、理論と測定の実際を学ぶと共に、それらの知識と技術を応用したデザイン評価実験を行う。

[目的・目標] 人間の生理心理機能測定法、例えば発汗測定法、血流量測定法、心拍出量測定法、皮膚電位水準測定法、心拍変動測定法、脳波測定法などに関する理解と測定技術の修得を目指す。また、人間工学的な実験を遂行し、デザイン評価について考察し提案する能力の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容] 第1回 実験概要の説明 第2回 発汗測定法 第3回 血流量測定法 第4回 心拍出量測定法 第5回 皮膚電位水準測定法 第6回 心拍変動測定法 第7回 脳波測定法 第8回 筋電図・筋音図測定法 第9回 関節角度・動作測定法 第10回 実験 第11回 実験 第12回 実験 第13回 解析 第14回 解析 第15回 実験結果発表会

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鍔・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。「心理生理学」J.L. アンドレアッシ著、ナカニシヤ出版

[評価方法・基準] 成績評価法：出席、態度、解析他

[履修要件] 人間工学演習 I 履修者

TF060101

授業科目名：音響デザイン演習
 科目英訳名：Acoustics Design (Lec. and lab.)
 担当教官：佐藤 公信
 単位数：3.0 単位
 授業コード：TF060101, TF060102
 開講時限等：4 年前期水曜 3 限 / 4 年前期水曜 4 限前半
 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 音をデザインの対象として扱う上で必要とされる知識や方法について講義し、具体的な課題を通して実際に音響デザインを試みる。

[目的・目標] 音が持つコミュニケーション手段としての有効性を、様々な視点から考察し、音響デザインの役割と方法を考える。

[授業計画・授業内容] 第1回 ガイダンス 第2回 技術と音響 音の成立ち、音の物理特性 第3回 聴覚と音響 聞こえる音・聞こえない音、他の感覚との相互作用 第4回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 蓄音機からヴァーチャルリアリティまで 第5回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 音の記号論 第6回 人間行動と音情報 信号音、マン・マシンインタフェース 第7回 アートの中の音 サウンドインスタレーション、音響彫刻、音楽と音響デザイン 第8回 音をデザインする (1) 音のデザイン 音を作り、加工する技術 第9回 音をデザインする (2) 音響デザイン 空間音響計画、空間演出 第10回 音をデザインする (3) 音環境デザイン 騒音、サウンドスケープ・デザイン、環境音楽 第11回 コンピュータミュージック MIDI インタフェースと電子楽器 第12回 音響デザインの実例「場」をつくる音響デザイン 第13回 音を見つける / サウンド・ウォーク 千葉大学キャンパス内の音を体験する レポート提出 第14回 レポート発表 ディスカッション 第15回 まとめ

[キーワード] サイン音, 音情報, デザイン

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 録音機材を用意すること

授業科目名： 機械工作実習 B
 科目英訳名： Practical training in machining B
 担当教官： 渡部 武弘
 単位数： 1.0 単位
 開講時限等： 4 年前期金曜 4 限 / 4 年前期金曜 5 限前半
 授業コード： TG093201, TG093202
 講義室： 工電子機械工学科機械工場 (13 号棟 102)

科目区分表

学科 コース	入学年度								学科 コース	入学年度 1996 年
	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ			専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	T8:画像 A	実験実習 (F28)
TF3:デザイン A メディアデザイン			専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)		
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)								

[授業の方法] 実習

[受入人数] 20 名

[受講対象] 学部他学科生 履修可; デザイン工学科 (意匠系)4 年生

[授業概要] 前半は、ものづくりに必要な機械操作法・加工法を基礎実習で体験し、毎回提出の自由課題製作レポートを発展させる。後半では、レポートを参考に専門項目へ配属され各自がオリジナル作品をコンセプト 設計 製作 工程検討 加工を行い製作する。発表会でプレゼンを実施する。

[目的・目標] 物作りの基本となる生産技術や加工技術を実際に体験し、種々の工作法を修得すると共に、物を加工する工程を把握し、生産設計や生産計画を行えるエンジニアセンスを育成する。

	科目の達成目標	関連する授業週	達成度評価方法	科目の成績評価全体に対する重み
1	各自が創作したデザインから加工性・機能性・メンテナンス性・強度・コストなどの問題を解決する能力	1, 2, 3, 4, 5, 6	レポート	30 %
2	安全かつ正確な機械操作を行ない加工法の特徴を理解し発展させる。	1, 2, 3, 4, 5, 6	作業評価・レポート	20 %
3	作品製作中に発生する問題を改善し限定された時間内で完成させる加工計画性。	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14	作業評価・報告書	30 %
4	発表時間 3 分で作品コンセプト・加工内容・考察・感想を視聴者に理解し易いよう工夫して発表する能力	15	発表	20 %

[授業計画・授業内容] 機械部品には丸物、平面上の物、複雑形状の物等がある。旋盤を用いた丸物の加工、フライス盤による平面加工、複雑形状の加工が可能な放電加工等を体験する。また、機械部品を接合させるための電気溶接とガス溶断も体験する。これらの加工は、NC 装置による自動化の方向にある。そのため、NC プログラミングについても勉強する。

1. ガイダンス、実習上の注意、実習内容の解説、班分け
2. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
3. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
4. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
5. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
6. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
7. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)

- | | |
|------------------------------------|---|
| 8. 自由課題製作実習 (作品コンセプト、図面、材料選択、加工検討) | 汎用旋盤,
フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 9. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 10. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 11. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 12. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 13. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 14. 自由課題製作実習 | 汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工, CNC 旋盤 |
| 15. 作品製作発表会 | プレゼンテーション・パネル・パワーポイント |

[キーワード] 機械加工、CAD、CAM、放電加工、溶接

[教科書・参考書] 項目によりプリントを配布する

[評価方法・基準] 加工作品、製作レポート、課題、感想文、製作作品発表会 (プレゼンテーション)

[関連科目] 精密加工学、デザイン工学

[履修要件] 全日程を出席すること。病欠・公欠の場合には補講を実施する。オリジナル作品の構想・スケッチ・図面を初回に提出すること。

[備考] 人身事故などを予防し安全に作業するために、作業着および靴を着用すること。また、作業に集中し、慎重にかつ注意力を持って行動すること。受講人数により内容を変更することがある。自由課題製作に必要な材料費は受講生が負担する。製作した作品は、工学部祭などで年内展示を行う。作品返却は、大学祭終了後に掲示・連絡等を行う。